



2010年10月10日

## 【先週のメッセージより】 第一サムエル八章

## 王様が欲しい！



●イスラエルの民はなぜ王を求めたのか。第一の理由は、8:1-3にあるようにサムエルの子供たちが、父親の道を歩まなかったからである。民はサムエルの子供たちに幻滅していたが、この状態こそ危険である。人に幻滅した時、心を神に向けるならば守られるのであるが、往々にして人は問題解決をしてくれそうな理想の「人間」を求め始める。その理想に堪える人間は残念ながらいない。

●イスラエル人は更に、回りの国と自国とを比べる過ちを犯した。神が後ろ盾なら何も恐れる必要がなかったにも関わらず、彼らは隣国と同じような王が欲しいと訴えた。王さえいれば、全ての問題は解決すると考えたのである。7-8節で神は民のこの要求は、神ご自身を否定することであるとまで言われた。しかし神は王の存立を許可した。なぜだろうか。

●第一に「人間の王」がどうい

存在か、実際に彼らに経験

させるためであった。神はイスラエル人達の「選び・自由意志」を尊重されたのである。8:18には厳しい警告があるにも関わらず、それでも民は頑なになって「どうしても、王が欲しい！」と訴えた。

●第二の理由は、来るべき神の御子、メシヤ=救い主/キリストのための備えである。どんなに優れた王でも真の平和は作れず、人間がつくり出す、あらゆる政治システム（全体主義、社会主義、共産主義、自由主義、資本主義、その他）も一見理想的に見えても、人間存在の根幹に横たわる自己中心と高慢の罪ゆえに、必ず内側から崩壊してしまふ。人が真にメシヤを求める始めるには、先ず、自分の愚かさを知る必要がある、ということなのだ。そうしてこそ、初めて、人は神に立ち返り、再び神を王として認め迎えようとするのである。■

## 【今週の暗唱聖句】 詩篇33:18

見よ。主の目は主を恐れる者に注がれる。

これに加えて、Iサムエル15:22「…見よ。聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。」も覚えよう。神は私たちの心を見られることをどんな時にも覚えよう。ダビデが詩篇139篇の最後に「私を探り、私の心を知ってください。私を調べ、私の思い煩いを知ってください。」と祈るようであろう。■

## 【デボーションのための祈りを二つ・・・】

<しあわせ> マザーテレサ

私たちは、みな、幸せになるために、生まれてきました。そして、神(イエス)を愛するようになったときにだけ、本当の幸せと安らぎを見いだすことができます。イエスを愛することで、喜びを感じ、大きな幸せを感じるのです。

イエス様！

私をお救いください。

愛されたいという欲望から  
ほめられたいという欲望から  
名誉を得たいという欲望から  
賞賛されたいという欲望から  
人よりも好かれないという欲望から  
相談されたいという欲望から  
よく思われたいという欲望から  
人気を得たいという欲望から

屈辱を受けるという恐れから  
軽蔑されるという恐れから  
非難されるという恐れから  
中傷されるという恐れから  
忘れ去られるという恐れから  
ひどい扱いを受けるという恐れから  
嘲笑されるという恐れから  
疑われるという恐れから



<Knowing You Prompts Me to...>

anonymous

How can I love without  
Knowing You?

If I sing praises without knowing  
You, my praises are empty  
If I serve with fervance and do not  
know whom I wish to satisfy,  
If I repent without much thought  
about how I greive You,

What good is all  
the religion in  
the world?

For  
Knowing You  
causes me to  
Praise You,  
Knowing You  
causes me to  
Adore You.



Knowing You prompts me to  
Humble myself before You,  
Knowing You prompts me to  
Cry about my sinful nature,

Knowing You brings me to  
Repentance,  
Knowing You brings me to a  
Fresh new walk.

Knowing You makes me weep  
for the Sins of society,  
Knowing You makes me want to  
Tell of Your salvation.

So Lord,  
I desire to know You more,  
to know You better,  
to know You deeper